

る。

〔同聲會報〕第二六九号 昭和二十四年十月 二頁

母校だより(昭和二十四年)

九月一日

第二學期始業。

十月四日

東京藝術大學開學式を午前十時から音樂學部奏樂堂に行う。上野學長の式辭、高瀬文部大臣、日本藝術院長、學士院長の祝辭があつた後、合唱誕生の讚歌(シューベルト)管絃樂大學祝典序曲(ブラームス)の演奏があつて式を閉ぢた。美術學部では物故教官の作品卒業製作品、繪畫彫刻百數十點を陳列して展覽に供した。

〔以下省略〕

〔同聲會報〕第二七〇号 昭和二十五年四月 三頁

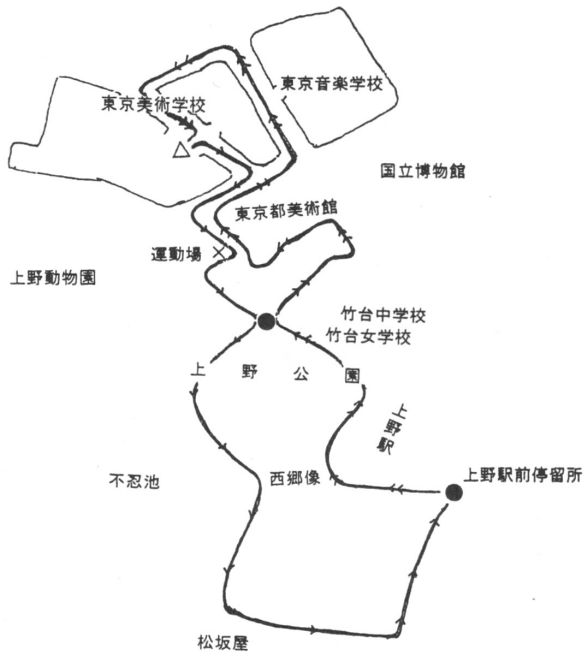
戦後の学校行事

(一) 第一回芸術祭

第一回芸術祭は、昭和二十一年十一月七日から十二日にかけて東京音楽学校・東京美術学校が合同で、教官と生徒が一つになつて催された。この時のプログラムについては本百年史『演奏会篇第二卷』七六〇〜七七二頁を参照されたい。また『美術学校篇第三卷』一〇三二〜一〇四二頁にも当時の写真や新聞記事が掲載されている。

本項においては学内に保管されていた『昭和二十一年度 藝術祭關係書類 準備委員長 藤』と表書きされた綴りより、前掲の既刊を補う資料をまとめておく。

また当時の教授会における芸術祭関連記録もあわせて掲載する。



第1回芸術祭
仮装行列コース内訳

- 往路
- × 運動会場
- クライマックスポイント
- ← 復路
- △ ファイアーstorm

※「美術学校篇第三卷」には、実際は銀座まで遠征したと記されている。

〔原資料中の路図をもとに作成〕

仮装行列コース内訳

日時 競技 十一月十二日 二時—四時

行進 十一月十二日 四時—五時半
 場所 競技 都營上野公園グラウンド
 行進 谷中—上野驛—松坂屋附近

東京美術學校
 東京音楽學校
 運動會プログラム内譯

場所・東京都々營上野公園グラウンド

日時・十一月十二日 午前九時—午後五時

開會午前九時

集合×聖火到着×開會ノ言葉×一同着席

(第一部) 競技開始 九時三〇分

- 1 綱引 美校×音校 美男三〇 音女五〇
- 2 二百米 美校(科別對抗) 男 各科一名
- 3 四千米 美校(科別對抗) 男 各科二名
- 4 ゼスチュア競争(二百米) 美校×音校 男 各校一〇名
- 5 騎馬戦 美校(科別對抗) 男 各科四人一組 五組
- 6 リレー(千米) 美校(科別對抗) 男 各科一〇名
- 7 煙草吸競争(百米) 美校×音校 男 各校八名
- 8 二人三脚 音校
- 9 ムカデ競争(五十米) 音校
- 10 ラグビー 美校ラグビー部×OB(對抗)

第一部完了 正午

(第二部) 競技開始 午後一時

野外演奏×特別競技(イモクヒ競争) 美校クラブ 男 二〇名

- 11 パンクヒ競争(百米) 美校×音校(對抗) 男 各校一〇名
 - 12 嫁取り競争(百米) 美校×音校(對抗) 男女 各校五名宛
 - 13 リレー(千米) 美校×音校(對抗) 男 一〇名
- 特別競技×野外演奏

第二部完了 午後二時

(第三部) 競技開始 午後二時半

- 14 美校科別對抗競技(假裝)
- 15 假裝上野地區行進—音校・借物競争・盲啞競争・對學級リレー
- 16 再ビ運動場へモドリ閉會

閉會午後五時

野外演奏

東京音楽學校生徒ニヨルモノ

- 準備委員(音校側)
- 1、準備委員長 藤教官
 - 2、總務部 町田事務官 澁谷 依田 佐藤(愛)
城多教官 馬淵 大澤
 - 3、演奏係
- 声乐 長坂教官 池田(綾) 松内
 ピアノ 今井教官 佐藤(愛)
 絃 兔束教官 赤松
 管 北爪教官 早川
 作曲 片山教官 芥川
 台奏 中田教官

管絃樂	金子教官
プログラム	今井教官
合唱	酒井教官
	城多教官
	柴田教官
	中田教官
能樂	寶生教官
長唄	山田教官
箏曲	中能島教官
4、舞台係	江場
5、會場係	小田野
6、宣傳係	林(祐) 清野
解説	芥川 内田 加瀬
プログラム	
宣傳	木村
印刷	有馬
撮影	金春 本田 久次
7、運動會係	川原 岡田
8、會計係	大柳事務官
税	佐藤
寄附招待券	佐藤 木村 沼田
出納切符	齋藤 今野 石田
購入	山崎
	渡邊 富持

經費内譯(收入ノ部)

計	12日		11日		10日		9日		8日		日 項
	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	
	邦樂第二部	洋樂第六部	洋樂第五部	洋樂第四部	洋樂第三部	邦樂第一部	洋樂第二部	「檢察官」	「檢察官」	洋樂第一部	日程
六五〇名	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇名	
七〇〇名	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	一五〇	一五〇名	入場者 招待
	一〇	五	五	五	一〇	一〇	一〇	五	五	五圓	
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	料金
四萬										萬	
一〇〇〇〇圓	六〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	三〇〇〇	二五〇〇	二五〇〇圓	收入
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	

註 寄附ニ依ル收入・當日賣ニ依ル收入・展覽會ニ依ル收入・解説書頒布ニ依ル收入ハ見込マヌ

經費內譯 (支出ノ部)

部	豫算	摘要	内譯
演奏	萬 五〇〇〇 圓	洋樂 樂譜印刷費 人件費 邦樂 舞臺裝置費 人件費	萬 一〇〇〇〇 圓
展覽會	二〇〇〇 〇〇	裝飾設備費 人件費 舞臺裝置費	
演劇	八〇〇〇 〇〇	大道具小道具 衣裳費 照明費 ソノ他	
會場	六〇〇〇 〇〇	洋樂演奏ノ舞臺裝飾 照明ソノ他 會場裝飾	五〇〇〇 〇〇
宣傳	六〇〇〇 〇〇	解說書作成費 ポスター製作費 ソノ他ノ印刷費 攝影費 ソノ他ノ宣傳費	
運動會	四〇〇〇 〇〇	賞品費 會場裝飾設備品 競技用器具費 ソノ他	
會計部	一八〇〇 〇〇	雜品購入費 交通費	

計	在外同胞救出 學生同盟	寄附	ソノ他
四 一〇〇〇〇 〇〇	八二〇〇 〇〇		

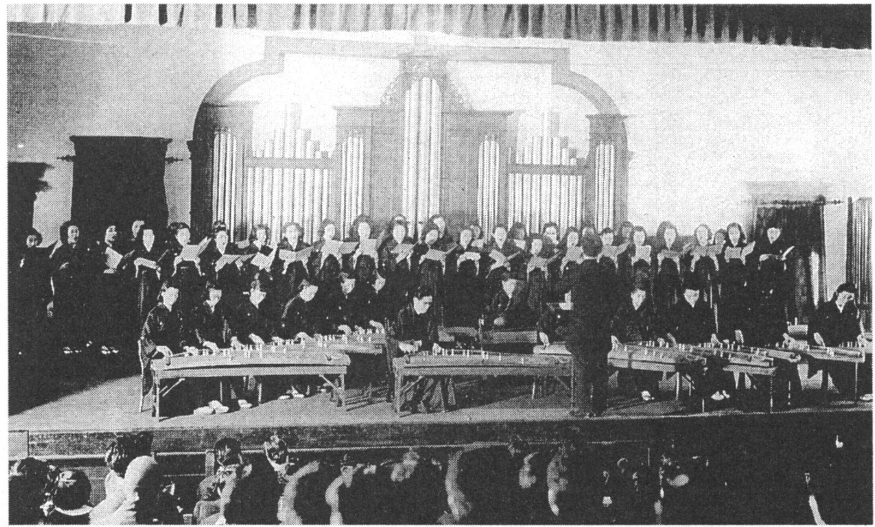
註 出演ノタメノ學校教官ヘノ謝禮ハ含マナイ

本藝術祭は、本校學友會委員と東京美術學校學友會委員とが本年春頃よりこの祭の案を寄せて協議し次第に具體化の機運濃厚になりつゝあつたが、これが生徒を主體とする學友會の幼きたるにとゞまり、學校側との連絡を缺きし爲、その計畫の進行途上、實現が、技術的にも事務的にも危ぶまれ、爲に本校としては、本十月に於て再三教授會を招集し、これが開催方につき協議せし結果、技術的缺點より、中止論又は延期論出でしも、既に新聞ラヂオ等により社會的にも關心を高め期待を寄せられてある現状と、生徒の折角の計畫を水泡に歸せしむるも氣の毒と考へられ、又、教官側にも、これを積極的に指導援助すれば、開催可能なるべしとの意見大勢を支配し、遂に之が實現方を決議するに至つた。これ以前に、教官中より各學科主任を主體とする準備委員が選出され、各専門に於て、演奏、事務に積極的指導に當ることとなつた。委員の顔觸は別紙印刷物の如し。

而して委員長については、教官及生徒との繋ぎの上からして、余を適任とする教授會及、主任會議の意見強く、余は、その任に能ずと存じ再三辭退せるも遂に引受けざるを得ざるに至つた。

但し余は、余の公的及私的事情からもあくまで藝術祭開催迄の推

昭和21年芸術祭
11月10日邦楽演奏会。
箏曲《うてや鼓》。中
央・箏独奏：宮城道雄、
合唱：師範科生徒
（『演奏会篇第二巻』
769頁参照）



11月11日洋楽演奏会。
ドヴォルザーク 交響
曲第5番（『演奏会篇
第二巻』764頁参照）

11月12日邦楽演奏会。
観世流《葵上》。左・シ
テ 島澤啓次（『演奏会
篇第二巻』770頁参照）





(上) 昭和21年芸術祭。野外演奏 (下) 演奏会の入場券を求めて行列する人々

進力とし又、捨石としての働きを務むべきことの諒解の下に、(これは校長並びに教授會、主任會議に諮り) この役を引受け、生徒一同にもこの意を傳へた次第である。

余が、右委員長を引受けたるは、藝術祭の期日たる十一月八日迄に僅に三週間を餘すのみに過ぎざる十月二十三日であつた。

余は、この時はじめて、それ迄、藝術祭の企畫にあづかつてゐた學友會理事、委員を通し、計畫の全貌を知つた次第であつた。(別紙聯合藝術祭實施要綱参照)

藝術祭の計畫は、生徒達によつて一部すでに大體軌道にのせられてゐたものもあつたが、大體に於て、未完成なものであつた。よつて余は生徒達にも傳へて、僅かなる準備期間の間に、敏速且、正確がこれが一切の準備を完了せねばならぬ状態にあつた。

學友會理事より仕事を引継ぎ學校及、學友會の仕事として以前よ

り大規模な形式のものとして遂行せねばならぬ使命を帯びた余は、二十三日早刻教官及學友會委員との連絡をつけ、藝術祭を、本校、本校學友會、美校、美校校友會の主催にて職員生徒うつて一丸となり之を完成すべきことを示した。

翌二十四日、生徒一同を奏樂堂に集め、教官委員の出席を乞ふた上で、準備委員長としての挨拶をし、本藝術祭實現に至る迄の経過を卒直に發表し、分裂の兆ある學友會の結束を強調し、音樂のいによる精神の昂揚と引揚同胞援護の崇高なる使命を自覺せしめ、生徒の奮起を促したのであつた。

十月二十四日(木)各専門教官委員は夫々の専門の生徒をあつめ、藝術祭出演希望生徒を調査し、プログラムの作成に備へたのであつた。

翌二十五日(金)午後一時より教官生徒合同打合會を會議室に開き、次の議題を議したのであつた。

- 一、日程の件
 - 二、プロ編成の件(邦樂出演目の件(第一日午前の部内容追加の件))
 - 三、豫算の件(演奏係の豫算とその内譯)
 - 四、寄附募集の件
 - 五、招待者の範圍の決定の件
 - 六、免税と海外同胞救出學生同盟に關する件
 - 七、練習時間割の件
 - 八、コーラス總練習の件
- 以下その各項目の内容検討である。
この決果、

一、日程の件

一、教師の日の入場料八十圓ノママ

二、生徒ニウルコト差支ヘナシ

三、生徒ハ原則トシテイレヌ

四、八、九、十、十一、十二とし、十三日は後片附の爲休みとす。

○邦楽差支ヘナシ 豫定通り 十日 午前中 一時

○第一日 午前

○火曜午前ハプロノ都合でよし

二、プロ編成の件

○宅、水谷、今井、宮内、遠見、梶原、秋元

○聲

○ピ

今井教官に一任

免税交渉に關する件

免税交渉については海外引揚同胞救出學生同盟の委員である本教師範科四年佐藤一夫君が主々に之にあたり、右同盟を本藝術祭の後援とすることにし、普通の興行なれば總經理の十割の課税あるべきところを、その十割の税に該當する額を學生同盟に寄附することとし但し同盟との話合ひに實際は二割を寄附し、他の八割は、右同盟から本藝術祭に寄附する形にして、之が免税手續方を稅務署に交渉し、これが手續を完了せり。

但し、右藝術祭終了後、一週間以内にその收支決算を稅務署に報告、それを一々につては明細なる受領証を添付すべきことを條件と

することになった。

これが完了の報告を余が佐藤君よりうけたるは十月二十八日午前なり。

しかるに、同日午後余が美校に事務連絡にゆきたるところ、美校委員小杉君が、その日午前、美校小林事務官と共に稅務署にゆきたるところ、本藝術祭の趣旨（美校の印刷による別紙。文化目的のみ謳ひたるもの）にては免税に該當せざるを以て、寄附行爲をつのればよいかから寄附にすべき旨、勸告をうけたる由なり。よつて金は、本校澁谷君と共に、それは、今はできぬ旨、免税と、次に述べる寄附との二本建に行かねばならぬ旨を、西本生徒課長、村井、小杉兩美校委員につたへ、尙ほ佐藤君と、小林事務官、小杉君と會ひ、右の事免税問題につき協議すべき旨を傳へた。

寄附に關する件

寄附については本校、沼田君が交渉の全權にあたり、上野警察署と再三、連絡。寄附申請書、會長履歷書、收支豫算書を警視總監宛提出することになり、因みに寄附の趣意書には、演奏、演劇の入場料のみにて藝術祭の經費を賄ひ、その収益は海外引揚同胞救出學生同盟に寄附することとし、運動會、展覽會の前にもみ寄附をつのることとせり。

右手續を終へたるは十月二十八日にて、當許可迄に一週間を要することの由なり。

しかし、余が準備委員長に就任したるとき、別紙の如き寄附依頼状はすでに美校側により印刷され、百五十枚が余の手許にもたらさ

れたる次第なり。而して美校はすでに五百枚の寄附依頼状をその時迄に發送してしまつてゐたのであつた。

余は十月二十八日、會長に寄附につき、一切の経過を報告した結果會長は、寄附依頼状の發送は警視廳の許可あるまで見合せすでに發送せるものは手續を知らなかつたのであるからやむを得ずとし、當趣意書についても前の印刷に後の謠ひ文句を補足挿入すべき旨注意があつて寄附先の範圍の選定は町田事務官井出囑託に依頼せり。

尙ほ、會長に右報告後、沼田君より余に、既に本校にても五
〔十通寄附依頼状を發送せる旨の報告をうけたり〕

余は、計畫の全貌を全校職員生徒に一刻も早く知らせる爲矢繼早に、藝術祭開催揭示、準備委員の發表、藝術祭の爲の打合せ會議發表、日程の發表等をした。

一方プログラム作成係今井教官に依頼し二十五日の打合せ會議にまで提出方を求めたるところ、間に合はず、土曜日午後三時迄といふことになつた。

かくいそいだのはプログラム印刷も早急にせねばならず、招待券・入場券等の切符印刷も急ぐ都合上であつた。

當解説書の作成は生徒に委員を任命し之が校閲に加藤教官をわづらはすことになつた。當解説書の巻頭に會長の巻頭言を、最後に本校澁谷、美校村井兩君の共同執筆になる編輯後記を附することゝした。

曲目については、色々變更方の申出があつたが、日程に變更のな

き限り之を認めることにし、結局八日のカルメンその他も十二日午後に變はることになつたりした。

そして別紙印刷の如く一應落着いた。

七日の總練習に關し、六日午後三時より美校にて借用方申入れがあり之を容れ、徹宵練習したいといふ先方の意見に對し、午後九時迄といふことにし責任上先方の生徒課長も監督を求め本校側にて、余と、生徒總務委員の澁谷君が責任上學校にとすることにした。(最初美校は五日、六日の兩日を欲しいといつたのであるが本校の練習の都合上、右のやうになりたる次第なり)

會計課の見地としては火災豫防の點より主としてこの點を懸念せり。

二十五日美校照明係員生徒來校、大柳會計課長と打合せ。

二十八日再度來校送電能力につき調査に來たれるも大柳氏不在の爲、翌二十九日午前十時來校を約して歸つた。先方の希望としては照明の爲五キロの電力を使用したき旨。
〔手書き〕

十月八日 議事録より

教務課記

八、藝術祭の件

別紙要領案により承認を受ける。

中田―學友會と學校との關係につき質問して、學友會と學校の緊密な連絡を要望する。(多數同意あり)

校長―藝術祭はよいことだが立派にやつて名譽を汚さない様にして欲しい。藝術祭のことは學校内よりも美校長より聞いて承知した位だ。新聞やラヂオで知つた位だ。

金子―學友會と學校の關係について説明する。文化・演奏・生活の三部があつて顧問は教官であるけれども企畫その他については相談は受けない。

校長―學校の主催になるならばまづいことも出来ないから自重して欲しい。將來學友會のあり方について考へる必要がある。教官と深い關係をもたせると言ふことについてよく相談して欲しい。

矢田部―藝術祭も凡てそだてると云ふ行き方がのぞましい。

北爪―オーケストラから見てカルメンは絶対に不可能だ。

金子―必ずしもカルメンに限らない。

校長―一應よく相談して善處して欲しい。

十月二十一日(月) 教授會議事録 教務課記

校長挨拶―藝術祭は學生の計畫であるがその計畫に不備の點がある爲め、教官中にも、生徒内にも中止の意見が多いのであるが、世間では確實なる行事として認めてゐる爲め、中止は不可能である。その爲め教官各位の御助力をかりてこの藝術祭を何とか無事に了れる様にして頂き度い希望です。

學友會組織の改革はこの藝術祭の後にしたい。

金子―理事が生徒の總意の代表者でないこと云ふことに端を發してもめてゐる。行事としてはカルメン、ニューワールドを考へ

た、入場者も十圓(教官)三圓(生徒)と考へてゐる。

井上、小澤、免束―ニューワールドは弾けない。

中田―管はまア〜の程度だ。

金子―どうせ完全は困難だがみつとむないと云ふことのない程度は可能。

藤―美校は助教は不賛成だったが今は凡てを押し切つて決行の氣運になつてゐる。假裝行列も美校はやる。

學校長―上野美校長とは連絡がとれなかつたが假裝行列の銀座進出は行き過ぎてゐる。學校内で止め度い。

一同―オーケストラ(藝術祭にやるものとして)出来ないものを無理にやる手はない。オーバチューア一つで如何。

中田―生徒と云つても責任は學校にあるから。校外より人をたのむのはよくない。恥をかゝせてやれ(指揮者に)と云ふ世評もある位だから謹むべきことだ。

一同―指揮者に見透しがあれば一任してニューワールドをやる。遺憾ながら……しかし皆の教官は一、レッスンに技術を見てやる。二、卒業生をくり出す。三、先生は出演しないが練習を積極的に見てやる。等の方法で援助をする。

金子―カルメンは練習用として始めたものを藝術祭に轉用された。それをピアノ伴奏でやる。

一同―一、コーラス全員参加(聲樂部に一任)

一、邦樂部―十日の午前中に變更 山田氏に一任

一、プラスの街頭行進は不可能?

一、教官の日 九・十の二日 人選は主任に一任

一、實行委員をあげて二十二日(土)一三〇〇より會議具體案の決定と云ふことにて解散。

(手書き)

(昭和二十一年度 議事録 教務課)